

郷土と天文の博物館  
講座担当者にインタビュー

郷土と天文の博物館では、葛飾の郷土史・天文（宇宙）などについてより深く知っていただくために、各種講座を企画、運営しています。

今回は、博物館で民俗学（郷土史等）を担当している小峰専門調査員（写真右）と、天文（宇宙）を担当している小林専門調査員に、講座を企画する上で思い、講座での工夫、感じていることなどを伺いました。

——民俗学の講座について

○小峰 葛飾は昔、農村で、田んぼや畑・ヤマ（木や竹など）植物が生い茂っているところ）がありました。木は燃料と



して使用し、竹は食器や子どもの遊び道具などに活用するなど、自然を最大限に利用した自給自足の生活を送っていました。

当時の生活を体験することで、昔の農村の文化を知ることができます。屋外で行う講座は、昔の農村の様子をより深く理解してもらうため、障子張りの体験や自然観察など、多岐にわたっています。

こうした講座の周知は、広報かつしかやホームページのほか、館内で配るチラシを中心に行っています。受講者の方から講座を知った理由をお聞きすると、「口コミ」と答えてくださる方が多いです。一度講座を受講した方が学校等で広めて、新たなお客様を連れてきていただける場合もあり、大変やりがいを感じます。

屋外の講座は体験を重視していますが、講座の受講後の反応、特に子どもたちの反応が非常に気になります。反応が、こちらの予測通りだということはまずありません。講座を通して、「子どもたちがどういう発見をして、何を学び、何が心に残ったか」を常に把握するように努めています。

雨天時など、予定どおりに講座が進まないこともあります。事前連絡通りの講座ができないとき、自然にに応じて内容が変わるということ子どもたちが学べてよかったという感想や、逆に何とかやってほしかったという感想も寄せられます。

参加者の感想は、私たちも毎回心にとめて次回の活動に生かすようにしています。

——天文学の講座について

○小林 かつしか宇宙塾（小学5・6年生が対象）・宇宙塾ジュニア（4年生が対象）については、各小学校に参加者の推薦をお願いしていますが、基本的に天文に関心のあるお子さんが参加しています。

星の一生・地球からの星の見え方・太陽系についてなど、参加する子どもにも考えてもらいながら学んでいます。受講後には質問をぶつけてくれる子どももいて、それにはできるだけ答えるようにしていますし、講座の企画を考える際、参考にさせていただいています。

子どもたちの感想は様々ですが、講座終了後に家族に話をするなど、波及効果も期待しています。

大人も参加できる講座には、研究者を講師に招いて開催する「星の講演会」や、今夜の星を大型の天体望遠鏡で見ってもらう「かつしか星空散歩」などがあります。できるだけ天文を身近に感じてもらえるよう、講座の時間を夜にして、実際の星を見もらうなど工夫もしています。

——最後に、講座のPRをお願いします

○小峰 昔の農村の文化を体験する、田んぼジュニア・畑ジュニアなどの講座は、

親子での参加を原則としています。一緒に参加し、保護者の方から子どもにも助言していただくことで知識が深まり、講座の内容がより活かせるようになると思いますので、ぜひご参加ください。

○小林 プラネタリウムでは、普段葛飾では見られない星も見ることができます。また、親子で参加する体験講座もありますので、ぜひお越しください。

詳しいご案内は、ホームページや館内のチラシ等でも行いますので、興味を持った講座には、ふるってご参加ください。

郷土と天文の博物館

